

いつの間にか二月になり、
 暦の上では春・・・のはずなのですが
 春の雪が都会を中心に降り続いています。
 被害があってはいいませんが、雪景色は本当に奇麗で、
 暖かな部屋で降り積もる雪を見るのもまた良いものですね。



さて、今回もうさおさん、健さんの俳句を拝見しましょう。
 まず、うさおさんの句です。



夕暮れや雪きしきしと道しろき

や・・・の切れ字があまり効果をあげていないかも。
 夕暮れの・・・とされた方が自然な感じです。
 きしきしという言葉は面白い発見だと思います。ただ、道しろき・・・は説明的。
 *夕暮れの雪きしきしと降り積もる
 これで、充分道の白さはわかりますよね。



温(ぬ)くとかね霰にかわる雪の宵

とても良いと思います。ぬくとかね・・・という方言が温かいです。
 良い句になりましたね。
 *「温とかね」霰に変はる雪夜かな



つかの間の北国の街雪融けて

都会に降り積もる雪、まるで束の間の北国のよう。
 つかの間の・・・と言うより、はっきりと北国のよう、
 北国と見紛うとする方が句がよりはっきりします。
 *北国と見紛う雪の融け始む





続いて健さんの句です。



一坪の菜園仕事風花す

何より季語が良いです。家庭菜園にはらはらと舞って来た雪の欠片
明るさも感じられ、もうじき春・・・という期待も感じられます。



療養の身にも日々あり草青む

冬に病氣療養されるのは本当に心細い事ですね。
季語の草青むで、その気持ちが少し和らぐ感じを受けます。
中七も良いですね。
少し語順を変えると句はしまりますが、柔らかめの原句の方が
明るいかな？ お身体ご自愛下さいね。

* 療養の身にもある日々草青む



寝ぐらへと帰るカラスや雪時雨

何気なく見上げた雪空、ねぐらに急ぐかのように飛び去るカラス
本当に何気ない句のようですが、景色がしっかり浮かびます。
寝ぐら 埒 カラス からす とされると句がしっとりとしてきます。
* 埒へと帰るからすや雪時雨



同じ事を詠んでも、少しの言葉選びで、俳句がぐっと生きてくる事もあるのです。
今回、お二人とも自然に詠まれていて、とても良いと思いました。
うさおさんの「ぬくとかね」という句、こういう風に会話をに入れて俳句を作るのも面白いし、
「きしきし」というような擬態語（オノマトペ）を使うのも面白いです。
これからもどんどん新しい試みで作句して下さいね。



関東の方では珍しい大雪との事、まだまだ寒さが続いています。
それでも良く見ると小さな木の芽や新しい草の若芽が・・・
春ももうすぐそこまで来ているようです。

代々の助六役者寒の雨

白魚の春の命を頂けり

ゆうこ

